

2019年(R元年)

6月

No. 329

ひとはろうしん



社会福祉法人 ひとほ福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムア・ジアド・リ) http://hitoha-fukushi.com (メルアド・リ) honbu@hitoha-fukushi.com

ゴールデンウィークが終わると、ギアチェンジの時期がきます。ましてや元号が新しくなり、「令和も引き続きよろしく願います。」なんて新年を迎えた時のように、認知症の父が「もう正月は過ぎたのにまた新しい年になる。ふうわらん。」とぼやく気持ちもわかります。みなさん、令和元年スタートどのようにお過ごしですか。

ひとは工房には、新西本邸で生活を始めたきららの仲間が4人います。彼らの生活ぶりはそれぞれ、新しく加わった2人にとっては慣れない環境でどうやって自分なりの生活を作っていくか、試行錯誤の2か月だったと覚えています。家に帰ることができない宗山さんは「ここはええです。」と言いつつ、家と西本邸を行き来しながらの内藤さんは、家に帰る日には意気揚々と笑顔。2人ともまだ慣れない生活に少しづつ慣れようと努力している様子を感じます。

さて、ひとは館の隣に縄文の池があり、この度改修工事を行っています。先日久保りに作業に参加しました。「こりゃあ、ラベル(水平レベル)が違うぞー」「ありゃ合わんで、ちょっと切ってみいせー」「ええで、やっ(エリ)機械がええけえのー」と、地域の方々とパチャパチャ喋りながらの作業は楽しく、快い疲労感を味わうことができました。近々リニューアルした縄文の池が完成します。美味しい縄文あいを食べながら、池の周辺を散策していただければ幸いです。(ひとは工房 伊藤 千代子)

おわび

5月号つうしん発送の際、誤って4月号つうしんを再度発送するという不手際がありました。活動の一環として封筒詰め作業をしている事業所も確認し、今後このようなことがないよう努めて参ります。同じものが再度お手元にありましたら、お手数ですがひとは福祉会事務局(0826-46-2960)まで連絡をお願い致します。申し訳ありませんでした。

あたらしく入ったひとはの仲間たち

きらら
名前 中島 楓
所属 ひとは工房
好きな食べ物 カラムーチョ、からあげ
にかがてな食べ物 こんにゃく(その時の気分です笑)
好きなこと カラオケ

スタッフ
名前 黒田 佳代子
所属 ひとはぼっこ
最近笑った話 家族で宮島に行き、アシカショーをみた時のこと。寝ているアシカを起す「起きてー」の声かけにも重たじず、ずっと寝ていたアシカがかわいく、大笑いしました。

もやいが10年ぶりに帰ってきました!!

10年前、悲願だった児童の福祉サービスを、甲田支所の一角をお借りして開設し、その中に事務所を移転して活動をしてきた相談支援事業所もやいが、多目的棟(仮称)の建設に伴い向原拠点に帰ってきました。もやいは、地域で生活をしていく中での困りごと等を一緒に考えていくなから、必要な福祉サービスを組み合わせ、それだけでは解決できない課題については、地域課題として自立支援協議会等を活用していくなから課題解決に向けて取り組んでいます。今回も評議員の茅野さんがフルオーダーメイドで相やベンチ等を作ってくださいました。「もやい」には「集う」という意味もあります。その中で「ちょっと聞いてみるんじやが」と、もやいを活用していただければと思います。(相談支援事業所もやい 岡崎 慎治)

「言葉の力」

高伏さんは様々な場で賞をとるなど絵を描くことが上手な方で、食べることも、料理をすることも好きなお方です。食堂で夕食の準備をしていると、今日のあっぷでの出来事を話をしに来られます。これは毎日のこと。いつもは話だけで去っていくのですが、この日は最後に「今日は笑顔でいいですね」と言ってくれました。初めて言われ、嬉しかったのと同時に、高伏さんはきららの仲間やスタッフのことをよく見ているなと思いました。新西本邸に移った高伏さんは、新しい環境にワクワクしているようです。私も高伏さんのように表情や言葉遣いに気を配りたいと思いました。

(食事部 松本寛子)

「名前」

私がひとほに来ってから1年が過ぎました。同じグループで働く河野崇史さんに、毎日「の！あ！」としか言わずには名前を覚えてもらおうと必死でした。ある日、「誰でしょう！」と聞くと「のがちゃん」と。の、のがちゃん!?!と驚いた反面、惜しいなーと思いつつとても嬉しかったことを覚えています。今でも時々「誰でしょう！」と聞いてみるのですが、「の…ちゃん」だったり、時には「ちゃん！」だけだったりのこと(笑)。河野さん独自の呼び方、大切にしていきたいと思えます。

(ひとほ作業所 新川乃亜)

「楽しみ」

ささき亭では、元気になる「楽しみ」があります。ここで働くきららの仲間は女子です。女子といえは「... そう！コーヒータム!!」疲れた姿が見え始めると「今日はコーヒータムを飲もう！」のスタッフの声のかけでズイッが入ります。15時はまだかとそわそわ...。待ちに待った15時。自分たちでコーヒータム、おやつを準備をします。そして今日一番の幸せ顔でコーヒータム... 私もホッと一息。「ひろしま満点双!!」でささき亭が紹介され、お客様も大々々嬉しい日々です。

(ひとほ作業所 貝清 直子)

「先輩としての自覚」

新学期が始まり、くらむぼんにも新一年生の子とも達仲間入りし、新しい風が吹いています。初めての場所で緊張し、戸惑う子とも達の中、4年生で先輩のT君R君が色々と気を配る様になりました。始まりの会では「こうするんよ」と姿勢を正し、静かに当番の言われる事に耳を傾ける姿を見せるなど、まるで自分の弟の様に接しています。先日も一年生の子ともが下馬太箱の掃除をしていると、そこへT君が行き自らほうきを持って「こうするんよ」とやさしく声を掛けています。子とも達は子とも達同士でお互いを認め、助け合いながら成長しているのだと思います。

(くらむぼん 小田陽子)

「3番のりばの由来」

あっぷのアート活動「3番のりば」がスタートして4年目に入りました。きららの仲間が思い思いの形で表現したり、気分転換になったり、楽しい時間になれば、という思いで週に1度活動を始めました。生まれた作品は作品展で入選したり、グッズができたり、Instagram(SNS)を通じてどんどん輪が広がっています。そんな3番のりばの名付け親は高伏さんです。芸備線吉田口駅の隣で活動していて、吉田口駅のホームには1番のりば、2番のりばがあります。なので「3番のりば」。駅のようにいろんな人達に来てもらいたいという思いを込めて考えました。今年度からはアグリサポ十内にも活動の場を広げ、これからどんな事をしようか、きららの仲間と一緒に考えながら楽しんでいきたいと思えます。

3番のりば Instagram → 3 bannoriba (駅前センター 二宮由香理)

編集後記: 昨年7月の西日本豪雨災害から1年が経ちます。私の住む井原地区もリバー氾濫し、橋が折れ、断水し、土砂崩れの危険性から避難指示の対象に入りました。先日から橋周辺の修復工事が始まりましたが、ニュースでは50年に1度の大雨...と報道されています。芸備線が生活にとって欠かせないものであったことを、あの時の恐怖を思い出して(言いかけた)感じます。

(竹内宏美)